



TITLE:

かんとト軌近ノ社會主義(一)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

---

CITATION:

米田, 庄太郎. かんとト軌近ノ社會主義(一). 經濟論叢 1918, 7(3): 332-352

ISSUE DATE:

1918-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/127432>

RIGHT:

## かんこト軌近ノ社會主義(二)

米田庄太郎

### (一) 緒言

#### (二) 新かんこ派ノ社會主義化運動

- (1) あるばーとらんげ、(2) へるまん、こーねん、(3) るーどるふ、しゅたむらし、(4) ばうろ、なー
- さるぶ、(5) ふらんつ、しゅたうぢんがー、(6) かーる、ふまるれーんだー

#### (三) 社會主義者ノかんこ化運動

- (1) まーろくす主義ノ危機、(2) じやんじょれ、(3) こんらーど、しゅみつこ、(4) えつあーと、
- べろんしゅたいん、(5) さじー、ぐんたー、(6) るーどぐいひ、ジなるごまん、(7) 露國ニ於ケル社會主義ノかんこ化ト主觀主義、(8) 露國ニ於ケル社會主義ノかんこ化ノ實際的影響

#### (四) 社會主義ノかんこ化ノ實際的影響

### (一) 緒言

夫レ軌近ノ社會主義ハ本論文中ニ論述スル處ニヨリテ知ラルル如ク大ニかんこ哲學ノ影響ヲ受ケテ發達セルモノ或ハかんこ哲學ニヨリテ新シキ生命ヲ注入セラレタルモノデアル。然ルニ近世

社會主義ノ歴史ヲ研究スルモノハ何人デモ注意スル如ク、かんとノ哲學ハ近頃ニ至ルマデ社會主義ノ上ニ一向影響ヲ及ボシテ居ラナカツタノデアル。然ラバ輓近ニ至ツテ何故ニかんとノ哲學ハ遽カニ社會主義ノ上ニサホド重大ナル影響ヲ及ボスコトナツタノデアルカ。是レ輓近ノ社會主義ヲ研究スルニ當テ吾人ノ念頭ニ先ヅ起ル問題デアリ、又輓近ノ社會主義ヲ十分ニ理解スル爲メニハ、吾人ノ先ヅ考究セネバナラス問題デアル。

今かんとノ哲學ト社會主義トノ關係或ハ連絡ハ、千八百九十年代ニ於テ、殊ニ其ノ中頃ヨリシテ著シク發達シテ居ルコトヲ見ルノデアル。サレバ兩者ヲ結び付ケル事情或ハ原因ハ同年代ニ於テ發生セルモノ、少クモ同年代ニ於テ著シク發達シ來レルモノト考ヘネバナラス。然ラハ其等ノ事情或ハ原因トシテ吾人ハ同年代ノ思想生活及ビ社會生活ニ於テ何物ヲ發見スルコトガ出來ルカ。

此ノ問題ヲ考究スルニ當テ、吾人ノ先ヅ注目ス可キハ同年代ニ於テかんとノ哲學ト社會主義トノ關係ハ、二ケノ方面ヨリ發達シテ居ルコトデアル。一ハ新かんとノ哲學者、殊ニまゐるぶる派ノ哲學者ノ中ヨリ起レル社會主義化ノ傾向或ハ運動ノ方面ニシテ Die Bewegung der Sozialisierenden Kantianer 一ハ社會主義者、殊ニまゐるくす主義者ノ中ヨリ起レルかんと化ノ傾向或ハ運動ノ方面 Die Bewegung der kanianisierenden Sozialisten デアル。サレバかんとノ哲學ト社會主義トノ關係ノ生起ヲ十分ニ理解スル爲メニハ、吾人ハ右ノ二方面ノ各々ニ就テ、之ヲ研究シナケレバナラス。是レ新かんとノ哲學者ノ社會主義化セル理由ト、社會主義者ノかんと化セル理由トハ根本的ニハ一致スル處アルト同時ニ、又異ナレル處モアルカラデアル。而シテ吾人ハ其ノ兩者ニ就テ一致スル

處ヲ理解スルト共ニ、又其ノ異ナレル處ヲモ理解スルコトニヨリテ、かんと哲學ト社會主義トノ關係ヲ十分ニ理解スルコトガ出來ルノデアル。尙ホ此ノ關係ノ後ノ發達ヲ研究スルニ於テモ、吾人ハ兩者ヲ區別シテ考察スルコトガ肝要デアルト思フ。是レ新かんと派ノ社會主義化ト云フ其ノ社會主義ト云フハ、倫理的社會主義ヲ意味スルダケノモノニシテ、今日普通ニ社會主義ト云フ場合ニ解セラレルカ如キ政治的社會主義ヲ意味スルモノデナク、要スルニ新かんと派ノ社會主義化ト云フハ單ニ思想界ノ一運動、一ノ倫理的運動ニ止マツテ居ルガ、社會主義者ノかんと化ト云フハ、かんと哲學ニヨリテ社會主義的政治運動及ビ社會運動ノ理論的基礎ヲ改造シ、又其ノ實際的方法ヲ修正セントスルモノデアルカラデアル。而シテ今日ノ社會主義的運動ノ實際カラ見レバ、特ニ重要視ス可キハ社會主義者ノかんと化傾向ノ方面デアル。併シ新かんと派ノ哲學者ノ社會主義化ノ傾向ノ方面モ啻ニ思想界ノ一新運動トシテ重要視ス可キモノタルニ止マラズ、社會主義ノかんと化ヲ大ニ助長セルモノトシテ、又重要視ス可キモノデアル。千八百九十年代ノ社會主義ノ狀態ヲ考察スルト、當時ノ頭腦ノ英敏ナル社會主義者ハ假令新かんと派ノ社會主義化ノ影響ヲ蒙ラズトモ、夫レ自身ノ理由ニヨリテ自カラ理想主義化ノ運動ヲ起シタデアラウト思ハレル。併シ夫レハ現ニ見ルガ如クかんと哲學ノ方針ニ進ミ、現ニ見ルガ如キ結果ヲ生ジタルヤ否ヤハ疑問デアル。サレバ新かんと派ノ社會主義化ハ、社會主義者ノかんと化ノ上カラ見テ甚ダ重要ナル意義ヲ有スルノデアル。カカル見解ヨリシテ余ハ茲ニ先ヅ新かんと派ノ社會主義化ノ方面ヨリ論究シ始メルコトトスル。

## (二) 新かんと派ノ社會主義化運動

今千八百六十年代ニ於テ「かんとニ歸レ」ト云フ叫ビ聲ガ獨逸ノ哲學界ニ於テ起ツテ以來、大ニ發達シ來レル新かんと運動ハ、種々ナル方針ニ分類シ得ラレルガ、(其ノ諸方針ノ詳シキ分類ニ就テハ Friedrich Ueberwegs Grundriss der Geschichte der Philosophie vom Beginn des neunzehnten Jahrhunderts bis auf die Gegenwart, neu bearbeitet und herausgegeben von Dr. K. Oesterreich, 19<sup>10</sup>ノ參考)併シ社會主義化ノ傾向ノ著シク現ハレテ居ルノハ、まゐるぶゐるハ派ト稱セラルルモノニ於テデアル。ソレデ茲ニハ只同派ノ哲學者ノ倫理的社會主義化ノ傾向ニ就テ論究スルダケニ止メル、

### (1) あるはーど、らんげ (Albert Lange, 1828—1875).

まゐるぶゐるハ大學ノ哲學教授ニシテ「唯物主義ノ歴史及ビ其ノ現代ニ於ケル意義」<sup>(1)</sup>ノ著者トシテ知ラルルらんげハ、まゐるぶゐるハ派ノ始祖トハ云ヒ得ラレナイニシテモ、トニカク近代ニ於ケル最初ノかんと者ノ一人、或ハ批判的唯心主義ニヨリテ強ク影響サレタル最初ノ哲學者ノ一人デアル。而シテ又社會問題ニ大ニ興味ヲ有シ、倫理學上ノ社會主義ヲ説イタ最初ノ哲學者ノ一人デアル。併シ彼ノかんと哲學ト社會主義トノ結合ハ決シテ學問的組織的デハナク、其ノ紐帶ハ寧ロ最トモ純潔ナル倫理的理想主義ニ充タサレタル彼ノ高尚ナル人格ニアルノデアル。彼ノ著「現代及ビ將來ニ對スル意義ニ於テ見タル勞働者問題」<sup>(2)</sup>ハ甚ダ有益ナル著作ニシテ、高尚ナル社會倫

(1) Die Geschichte des Materialismus und Kritik seiner Bedeutung in der Gegenwart. 1866.  
(2) Die Arbeiterfrage in ihrer Bedeutung für Gegenwart und Zukunft. 1866.

理的思想ヲ説述スルモノデアルガ、併シ其等ノ思想ハかんと哲學ト組織的關係ヲ有ツテ居ラナイ。而シテ吾人が明白ニ倫理的社會主義化セル最初ノ新かんと哲學者ト見做シ得ルハ、へるまん、こーへんデアルト思フ。

(2) へるまん、こーへん (Hermann Cohen, 1842-1918)

こーへんハまゝるぶーるひ派ノ指導者ト見做サルル現代ノ大家ニシテ、又社會主義ノ建設ニ對スルかんと倫理學ノ根本的重要ヲ明ラカニ論述シタル最初ノ哲學者デアル。彼ハ千八百七十七年「ニ公ニセル」かんと倫理學ノ論證<sup>(1)</sup>ニ於テ、既ニかんとノ最高善ハ根本的ニハ政治的ノモノデアルト論ジテ居ル。併シ彼ガ最トモ直截的ニかんと社會主義トノ關係ヲ論述シタルハ、らんげノ「唯物主義ノ歴史」ノ第五版ノ序論(Einführung mit Kritischen Nachtrag zu F. A. Lange's Geschichte des Materialismus und Kritik seiner Bedeutung in der Gegenwart. 1896)ニ於テデアル。茲ニ彼ハらんげモ尙ホだーういん主義ヲ以テ充タサレタル其ノ時代ニ於テ免ルルコトノ出來ナカッタ偏見即チ社會主義ヲ自然主義的ニ論證セントスル偏見ヲ大ニ排斥シ、而シテ卒直ニ簡潔ニ、「社會主義ハ倫理學ノ理想主義ニ基ヅイテ建設サルル以上ハ正當デアル。而シテ倫理學ノ理想主義ハ社會主義ノ基礎ヲ据附ケルモノデアル」ト云ヒ、更ニ「かんとハ獨逸社會主義ノ眞實ノ創設者デアル」(Kant ist der wahre und wirkliche Urheber des deutschen Sozialismus.)トマデ斷言シテ居ル。要スルニ彼ハかんとノ斷言的命令ヨリ社會主義の根本思想ヲ引キ出サントスルノデアル。

尙ホこーへんガ當時如何ニ眞面目ニ彼ノ倫理的社會主義ノ思想ヲ確信シテ居ッタカハ、右ノ序

(1) Kants Begründung der Ethik. 1877.

論中ニ當時ノ政治的社會主義ニ對シテ種々重要ナル要求ヲ呈出シテ居ルノヲ見テ察スルコトが出  
來ル。茲ニ其等ノ要求ノ主要ナルモノヲ擧ゲテ置クガ、(1)社會主義ハ其ノ基礎トシテ唯物主義ヲ  
只時々振リ落スダケニ止マラズ、之ヲ根本的ニ放棄セネバナラス。(2)社會主義モ倫理學ト同ジク  
其ノ建物ノ冠頂トシテ神ノ觀念ヲ載イテ居ラネバナラス。但シこゝにんノ神ノ觀念ト云フハ善ノ  
力ノ信仰、正義ノ實現ノ希望等ヲ意味スルモノデアル。(3)社會ノ概念ヲ純現實主義的ニ解釋スル  
コト、及ビ物質的ナル經濟的組合ノ觀念ヲ排斥シ、理想トシテノ法律及ビ國家ノ畏敬ヲ要求セネ  
バナラス。蓋シ法律ガナケレバ自由ハ存立シ得ナイト同ジク、法律ニ於テ成立スル社會ガ存在シ  
ナケレバ自由ナル人格、倫理的實在物ノ眞實ナル團體ハ成立シ得ナイカラデアル。吾人ハ必然的  
ニ不完全ナル現存ノ法制及ビ國家組織ヲ承認スルト同時ニ、其ノ缺點ヲ鋭ク擲破スル能力及ビ之  
ヲ根本的ニ除去セントスル強キ熱情ヲ具有スルコトハ出來ル。而シテ右ノ二條件ノ結合ガ實ニ不  
斷ノ歴史的進歩ヲ生ンデ來タノデアル。終リニ(4)人道(人類社會)ノ觀念ト國民ノ觀念トヲ結合  
セネバナラス。蓋シ吾人ハ吾人ノ畏敬シ尊重スル人道ヲ、吾人ノ愛スル國民ニ於テ實現ス可ク努  
力セネバナラスカラデアル。國民觀念ハ一國內ニ於テハ特權階級ニ對シテ人道ノ觀念ヲ代表スル  
モノニシテ而シテ社會ノ觀念ハ精神ノ教化ニ基ヅケル國民ノ眞ノ統一ヲ造ルモノデアル。而シテ  
カカル意味ニ於テ國民觀念ノ實現ノ爲メニ働クハ理想主義ノ任務ノ總體デアル。

こゝへんハ更ニ「純粹意志ノ倫理」(Die Ethik des reinen Willens, 1904)ニ於テ彼ノ倫理的社  
會主義ノ思想ヲ深キ根柢ヨリ詳シク論述シテ居ル。茲ニハ其ノ大要ダニ紹介スル暇ナキヲ以テ省

イテ置クガ、併シ上ニ述ベシ處ニヨリテこゝへんノ思想ニ於テかんと哲學ト社會主義トノ組織的結合ガ先ヅ如何ニ遂行セラレタカヲ、大體上學ビ得ラレルト信ズル。

(3) るーどるふ、じゆたむらー (Rudolf Stammeler, 1856—)

しゆたむらーノ著「經濟ト法律」(Wirtschaft und Recht, nach der materialistischen Geschichtsauffassung. Eine Sozialphilosophische Untersuchung. 1896)ハ新かんと派ノ社會哲學ノ方法論ヲ始メテ深く又詳シク論述シタル名著ニシテ、晩近ノ社會學ノ發達上ニ大ナル影響ヲ及ボシタルモノデアルガ、殊ニ社會主義ノ晩近ノ理想主義的發達ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ボセルモノデアル。併シ彼ノ思想ノ一般ヤ、其ノ批判ヤ、又其ノ現代社會學ノ發達ニ及ボセル影響等ニ就テハ、余ガサキニ公ニセル「批判的法理學ト社會學」、「しゆたむらーノ批判的法理學」、「新かんと派ノ社會哲學」等ノ諸論文中心ニ論述シ、又社會主義ノ晩近ノ發達ノ上ニ及ボセル彼ノ思想ノ影響ノ一般モ矢張りサキニ公ニセル論文、「法的社會主義ノ研究」中心ニ論述シテ置イタカラ、茲ニハ只彼ノ方法論ノ根本思想ヲ簡單ニ説述シ、以テ新かんと派ノ社會哲學ノ方法論ガまゝくす派ノ唯物史觀說或ハ社會的唯物主義ノ瓦壞ト、晩近ノ社會主義ノ理想主義的發達トノ上ニ及ボセル影響ノ一斑ヲ明ラカニスルニ止メタイド思フ。

今しゆたむらーハかんと哲學ノ立場ヨリ見テ、社會生活ノ認識批判的研究ヲ以テ社會哲學ノ根本的任務ト考ヘ、而シテ「如何ナル形式的條件ノ下ニ於テ、社會生活ハ吾人ノ認識ノ適當ナル對象トシテ捕捉セラレ、又統一的ニ思惟サレルコトガ可能デアルカ」ト云フ問題ヲ、中心問題トシテ



呈出シテ居ルガ、此ノ問題ニ答ヘテ彼ハ是レ「人間ノ團結生活ハ外部的（外部的ニ拘束スル規範ニヨリテ）ニ規制サレテ居ルト考ヘラレルガ爲メデアル」ト云フテ居ル。彼ノ論ズル處ニヨレバ、外部的規制（法律）ハかんと哲學ノ用語ニ從ヘハ社會的實質（社會經濟）ノ形式、即チ社會的經驗ニ於ケル決定的ナ、制約的ナ、法的ナ要素ニシテ、社會的經驗ハ又總テノ經驗ノ如ク只一ツデアリ得ル。而シテ因果性ハ只一ツアルノミデアルカラ、經濟的法律的發達ニ就テ統一的方法或ハ法則性ヲ發見セントスルコトハ決シテ唯物史觀說ノ缺點デハナクシテ、却テ其ノ効績ト認ム可キモノデアル。又社會生活ハ本來一元的ニシテ、精神的運動ト其ノ根柢ニ横ハル經濟的運動トノ結合ハ根本的ニ否ム可カラザルモノデアル。而モ經驗ノ不可避的及ビ不可脱的ナ因果性ノ外ニハ他ノ法則性ガ存在シナイト考ヘルノハ、唯物史觀說ヲ始メ總テノ自然科學的思想ノ大謬見デア。吾人ハ原因ト結果トノ法則性ノ外ニ、他ノ種類ノ法則性ヲ考ヘルコトガ出來ル。即チ通俗的ニ云ヘハ認識ノ法則ノ外ニ意志ノ法則、勸カレルモノノ法則ノ外ニ勸キカケルモノノ法則、存在ノ法則ノ外ニ當爲（或ハ不許不）ノ法則ガアルノデアル。是レ決シテ第一ノ因果性ノ外ニ、其ノ上ニ干涉シテ其ノ無例外的妥當性ヲ損傷スル第二ノ因果性ガアルト云フ意味デハナイ併シ因果性トハ全ク異ナレル他ノ法則性ノ存在スルコトヲ意味スルノデアル。即チ「何故カ」ヲ説明シ、原因ト結果トノ關係ヲ説明スル法則性ノ外ニ、「何處ヘ」カラ説明シ、手段ト目的トノ關係ヲ説明シ、可能的目的の設定ノ最上ノ統一トシテ究極目的マデモ明ラカニスル新シキ法則性ノ存在スルコトヲ意味スルモノデアル。ツマリ社會現象ノ因果的考察法ノ外ニ、之レト矛盾スルコトナクシテ却テ之ヲ

補充スル目的論的或ハ倫理的考察法ノ存在スルコトヲ意味スルノデアル。而シテ是レ實ニ社會的唯物主義ノ理論家ノ是レマデ全ク注意シナカッタ點デアル。社會現象ノ倫理的判斷ハ其ノ生成ノ發生的の説明トハ全ク異ナル或物デアル。具體的ナル社會的運動ハ常ニ社會的狀態ヨリ發生スルモノデアルガ、併シ人間ノ願望及ビ目的ニヨリテ指導サル可キモノニシテ、而シテ其ノ最高ノ標準トシテハ只一ノ究極目的ガアルバカリデアル。併シ此ノ究極目的ガ普遍妥當性ヲ有スル爲メニハ、夫レハ決シテ經驗的ニ制約サレタル箇別的或ハ特殊的目的デアツテハナラヌ、而シテ一ノ形式的思想、即チ統一的の見地デアラネバナラヌ。云フマデモナク此ノ形式的思想ノ具體的内容ハ只經驗ニヨリテノミ充タサレ得ルモノデアル。而モ此ノ形式的思想其物ハ一切ノ制約サレタル箇別的目的ノ上ニ立チ、無制約的妥當性ヲ有シテ之ヲ判斷シ指導スルモノデアル。然ラバ其ノ社會的究極目的ハ如何ナルモノデアルカト云フニ、しゅたむらゝハ之ヲ「自由ニ意志スル人間ノ共同生活團體」 Die Gemeinschaft frei wollender Menschen ト解シ、而シテ此處ニ各箇人ハ他人ノ客觀的ニ正當ト認メラレル目的ヲ自己ノ目的トナスノデアルト説イテ居ル。

しゅたむらゝガ社會的唯物主義ヲ根本的ニ排斥シテ、社會的理想主義ヲ確立セン爲メニ説イタカんと哲學的方法論ノ根本思想ハ、大體上右ニ述ベシガ如キモノデアルガ、彼ノ方法論的思想ハ社會學ノ晩近ノ發達ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボシテ居ルノミナラズ、社會主義ノ晩近ノ發達ノ上ニモ亦重大ナル影響ヲ及ボシテ居ルノデアル。

(4) ばうる、なーとるぶ (Paul Natorp, 1854—)

なりとるハ獨逸ニ於ケル現代社會教育學ノ創設者、少クモ其ノ一人ト見做サレテ居ルガ、其ノ社會教育學ナルモノハ、ツマリ新かんと派ノ倫理的社會主義ヲ特ニ教育學トシテ發達サセタモノデアル。而シテ彼ノ社會教育學上ノ組織的著作「社會教育學」(Sozialpädagogik. Theorie der Willenserziehung auf der Grundlage der Gemeinschaft, 1899)ハ彼ノ認識批判の原理、倫理學ノ主要觀念、社會哲學ノ基礎、及ビ意志教育ノ組織并ニ方法トシテ社會教育學ノ綱概等ヲ組織的ニ概論セルモノデアル。併シ本書ノ大要ハ確カ大瀨氏ニヨリテ我國ニ紹介サレ、我國ノ教育者間ニモ可ナリニヨク知ラレテ居ルト思ハレルシ、又余モサキニ公ニセル論文「新かんと派ノ社會哲學」ノ中ニ新かんと派社會哲學ノ重要ナル一方面トシテ、之ヲ論ジタカラ、茲ニハ只本論文ノ趣旨カラ見テ特ニ重要ト思ハルル點ヲ極簡單ニ述ズルニ止メル。

な―とるふノ考フル處ニヨレバ人間ノ教育ハ只社會ニ於テ、又社會ニヨリテノミ可能デアル。サレバ總テ教育學ハ根本的ニハ社會的教育學デアル。而シテ真正ナル社會主義ハ正當ナル箇人主義ヲ排斥スルモノデナクシテ、之ヲ包含スルモノデアル。是レ社會ノ發達ハ自我ヲ制限スルモノデナクシテ、之ヲ擴大スルモノデアリ、又箇人ヲ壓縮スルモノデナクシテ、之ヲ展開セシメルモノデアルカラデアル。人間ノ行動ノ三大基本因素タル衝動、意志及ビ理性ハ、社會生活ニ於テ常ニ新タニ相互ニ補充スル三種ノ基本的ナル社會的行爲ヲ發達サセル。其ノ一ハ經濟的行爲、其ノ二ハ統治的行爲、其ノ三ハ教化的行爲デアル。此等三種ノ社會的行爲ハ各々特有ノ目的ヲ有スルガ、併シ其ノ追求ニ於テ常ニ他ノ助力ヲ要ス。人間教化ノ最高目的ニ對シテハ經濟及ビ法律ハ單

ニ手段ニ過キナイト同時ニ又必要缺ク可カラザル手段デアル。而シテ經濟的勞働及ビ政治的行爲ヲ倫理的ニ高尚ナラシムルニハ教化が必要デアル。

社會進化ノ原則ハ自然法則或ハ經驗法則トシテデハナク、理想ノ調整的法則トシテ觀念サル可キモノデアル。但シ其ノ調整的法則タルヤ常ニ經驗ノ一般的法則ト最トモ親密ナル組織の結合ヲナスヲ要ス。自然知識ト技術ト社會的規制トノ空隙ナキ結合ニ於テ、社會生活ハ合理的ニ形成サレルモノニシテ、此ノ結合ノ初步ノ階段ニ就テハ、唯物史觀說ハ之ヲ大ニ闡明シタ。併シ其ノ最高階段ヲ意識的ニ實現セントスル思想ヲ全ク缺イテ居ル。是レツマリ歴史の唯物主義ニモ亦自然科學的唯物主義ニモ、本來附着スル一缺點即チ認識批判ノ缺乏ノ結果デアル。吾人以外ニ自然法則ノ存在セザル如ク、社會的法則性モ亦只意識ノ法則性ニシテ、社會的「實質」<sup>「マテリアル」</sup>ヨリシテ引キ出サレ得ルモノデナイ。更ニ最下ノ物質的條件ヨリ意識形式ノ最上ノ法則、理想ノ法則ニ至ルマデ、遍キ不斷ノ結合ガ存在スル。此クテ一ノ新シキ社會的秩序ヲ創造スル爲メニハ、先ヅ第一ニ最高ノ技術的識見ガ確カニ必要デアルガ、併シ夫レト同様ニ又究極ノ指導的見地トシテ、目的ノ有リ得ルダケ最善ナル秩序ノ觀念ガ必要デアル。而シテ兩者ノ合同ニヨリテ茲ニ社會生活ノ三大基本因素ノ完全ナル法則的結合ガ成立スルノデアル。要スルニ社會進化ノ究極目的、隨フテ又人間教化ノ原則ハ人性ノ基本的諸能力ガ空隙ナキ調和的結合ヲナシテ人間ノ一切諸方面ノ完全ニ發展スル下ニ成立スル目的ノ統一的ナル倫理的秩序デアル。而シテ此ノ理想ヲ箇人ニ於テ又社會ニ於テ實現セント絶ヘズ努力スルコトガ、是レ即チ「究極目的」ノ運動デアル。併シ此ノ目的ニ達スル

爲メ、或ハ少クモ此ノ目的ヘノ途ニ進ム爲メニハ、吾人ハ何ヲナス可キカ。特ニ教育ノ方面ニ於テ之ヲ教ユルモノハ、即チ意志教育ノ組織及ビ方法トシテノ社會教育學デアル。

約言スレバ既ニぶらとーノ觀破セシ如ク、教育ハ社會ノ爲メニ役立チ又社會生活ハ教育ノ爲メニ役立ツモノデアラネバナラヌ。併シぶらとーハ社會生活ニ對スル精神的教育及ビ分業ノ重要ヲアマリニ過大視シ、而シテ經濟的及ビ政治的因素ノ重要ヲアマリニ過小視シタルガ爲メニ、右ノ思想ヲ甚ダ不完全ニシカ發達サセ得ナカツタノデアル。人間ノ究極目的ハ人性ノ完成デアル。而シテ只真正ナル社會生活ノ基礎ニ於テノミ、歷史的、倫理的及ビ哲學的教育ハ眞實ナル果實ヲ結ビ、審美的水準ガ高メラレ、終リニ宗教的感情ガ榮ヘ得ルノデアル。但シ舊彼岸宗教ハ既ニ其ノ任務ヲ盡クシ了ツタノデ、今ヤ成熟セル「人道ノ限界内」ノ新シキ宗教ガ之レニ代ツテ發達ス可キデアル。而モ其ノ宗教ハ人工的ニ造ラレルモノデナク、「人間社會ノ倫理的革新ノ果實」トシテ自然ニ發達スルモノデアル。

(5) ふらんつ、しゅたうぢんがー (Franz Staudinger, 1849—)

しゅたうぢんがーハ新カント哲學者ノ中デ、まゐるくす主義ト批判主義トノ結合ノ可能ヲ最も鋭ク言明シ、又其ノ必要ヲ強く高調セル最初ノ人デアルト云ハレテ居ル。しゅたむらーヤなゝとるふハ唯物史觀說、社會的唯物主義ヲ大ニ排斥シテ、社會的理想主義ノ方法論的確立ヲ論證セント企ダテテ居ルガ、併シ特ニまゐるくす主義ト批判主義トヲ結合セント努力シテ居ルトハ思ハレナイ。然ルニしゅたうぢんがーハ明ラカニ此ノ結合ヲ目的トシテ論究シテ居ルノデ、彼ハ其ノ著

「倫理學ト政治學」(Ethikund Politik, 1886) ニ於テ「かんミトヨリテ行ハレタル倫理學ノ分析的論證(或ハ確立)ハ、こゝねん、しゆたむらゝ、なゝとるお等ニヨリテ一層大ニ發展サレタル形態ニ於テ、まゐるくす、えんげるす派ノ主トシテ歴史の因果的ナル論證ノ必然的補充ヲナスモノデアル」ト云フテ居ル。要スルニ彼ハ新かんミト哲學ニヨリテまゐるくす主義ヲ補充シ、以テ兩者ノ結合ヲ意識的ニ企ツルノデ「社會主義化スルかんミト哲學者」ノ態度ヨリ、進ンデ「かんミト化スル社會主義者」ノ態度ニ一致シ來レルモノデアル。サレバかんミト晩近ノ社會主義ノ發達トノ關係ヲ、新かんミト哲學ノ發達ノ方面カラ考究スルニ當テ、彼ノ思想ハ最トモ興味アルモノノ一ツデアル。

今しゆたうぢんがゝノ論ズル處ニヨレバ、「眞正ナル道德ノ原理トハ即チ平等ナル人間ノ間ニ於ケル人間の思惟、意志及ヒ行爲ノ統一ノ原理デアル」。此ノ原理ハ基督教ノ神ノ王國ノ觀念ノ根柢ニ存スルモノデアルガ、併シ今ヤ其ノ內面的條件ニ於テ認識セラレ又展開セラレ、彼岸ノ雲霧ノ中ヨリ人間ノ現實生活ノ中ニトリ込マレテ其ノ一原動力トナツテ來タノデアル。而シテ倫理的理想トハ即チ「自由ナル平等ナル人間ニヨリテ創造セラル可キ、知識、目的秩序及ビ意志ニ於ケル實際的社會生活ノ統一デアル」、或ハ「自由ニ意志スル人間ノ共同生活團體デアル」。而シテ此ノ理想ヨリシテ一切ノ社會倫理ガ生レ、之ニ反シテ此ノ理想ノ曇ルコトガ目的ヨリモ手段ヲ重ンズル一切ノ暴力倫理ノ根源デアル。倫理的政治ノ任務ハ「與ヘラレタル、歴史のニ生成セル秩序ヲ、右ノ社會倫理の究極目的ノ方ヘ合理的ニ進歩セシムルコト」ニシテ、而シテ其ノ手段ハ知識ト組織トデアル。吾人ハ民衆ノ暗キ意識、彼等ヲ妄想的目的ヘ盲目的ニ突キヤル感情の壓迫ヲ明晰ナ

ル知識、目的意識のナル意志及び組織サレタル行爲ニ化成セシメネバナラス。

社會ノ倫理的革新ニ必要ナル歴史の條件ガ缺ケテ居ル以上ハ、倫理ハ確カニ無力デアル。『まゝ  
るく、あうれるノ最トモ美ハシキ倫理的訓言モ羅馬ヲ破滅ヨリ救フコトハ出來ナカツタ。是レ其  
等ノ訓言ガ民衆運動ノ生キタル原動力トシテ働カナカツタカラデアル』。併シ現代勞働者運動ニ於  
テハ高等ナル倫理の原理ガ生キタル原動力トシテ働イテ居ル。資本主義組織ハ舊自由主義者ノ信  
ゼシ如ク自由平等ナル人間ノ共同生活ノ組織デハナク、只早代ノ箇人の支配形態ヲ資本ノ非箇人  
の支配形態ニ代ヘタダケノモノデアル。之ニ反シテ社會主義ハ高等ナル倫理ヲ代表スルモノデア  
ル。而モ社會主義ニモ今尙ホ之レニ附着スル暴力倫理ノ多クノ殘物ガアルカラ、其等ノ殘物ヲ洗  
ヒ落スコトハ社會主義ノ急務デアル。更ニ社會主義ハ發達ノ連續、即チ生成シツツアルモノト、  
既ニ生成セルモノトノ斷ヘザル結合ヲ破ラントシテハナラス、而シテ出來ルダケ合理的進歩ノ途  
ニ猛進セント努力セ、ネバナラス。

まゝるくすノ方法トかんとノ方法ハ、何レモ心理學的研究ヲ行ナハントスルモノデナク、與ヘ  
ラレタルモノノ客觀的分析ヲ目的トスルモノデアル點ニ於テ比較サレ得ル。而シテまゝるくす說  
ノ箇別の研究ノ多クハ修正ヲ要スルトシテモ、其ノ原理及び方法ハ敢テ非難サル可キモノデナイ。  
吾人ハ其ノ原理及び方法ニ於テ何等根本的ナル誤謬ヲ發見スルコトハ出來ナイ、併シ補充ヲ要ス  
ル缺陷ガ發見サレル。而シテ其ノ缺陷ト云フハ、ツマリまゝるくすハ經濟ト倫理トノ關係ノ問題  
ヲ十分ニ深く考究シナカツタ事デアル。彼ハ只如何ナル法則ガ、今日ノ國民經濟ニ於テ現實ニ働

イテ居ルカラ示サント欲シタダケデ、其ノ正又ハ不正ノ問題ノ考究ハ全ク排斥シタ。併シ是レハ不可能ナル冒險デアル。夫レまゝるくす主義ガ因果の見地ヨリ社會の生成ヲ科學のニ研究スル以上ハ其ノ見地ハ有效デアル、而シテ其ノ實際上ノ種々ナル誤謬ハ科學の統一の方法ニヨリテ常ニ之ヲ訂正スルコトガ出來ル。併シ與ヘラレタルモノヲ何レカノ方向ヘ意識的及ビ計畫的ニ化成セシメントスルニ於テハ、其ノ方針ヲ因果の生成ニ於テ發見スルコトハ出來ナイ。而シテまゝるくす主義者ガ此ノ事ヲ意識スルヤ否ヤ、其ノ原理ヲ徹底的ニ推究シ行クコトニ於テ遂ニかんどニ達セザレハ已マナイデアラウ。吾人ハ只かんどノ原理ニ從フコトニヨリテノミ、目的構成ノ法則ヲ深ク會得スルコトガ出來ルノデアル。併シ目的構成ノ法則ハ事實の生活ノ自然法則ニヨリテ其ノ地盤ヲ與ヘラレルニ非ラズハ、單ニ空虛ナル型ニ止マル。而シテかんど哲學者ガ此ノ事ヲ明ラカニ認ムルヤ否ヤ、其ノ根本的思想ノ徹底的推究ニ於テ、自カラまゝるくすニ達スルデアラウ。蓋シまゝるくすヲ研究スルコトニ於テ從來ノ經濟的發達ノ法則ヲ深ク理解スルコトダ出來ルカラデアル。

以上し たうちんがーノ思想ニ就テ述ベシ處ニヨリテ、吾人ハまゝるくすノ社會的唯物主義ヲ根本的ニ排斥シテ、社會的理想主義ヲ方法論的ニ樹立セントスル新かんど派ノ態度ガ、兩者ノ適當ナル結合或ハ調和ヲ圖ラントスル態度ニ移リ、而シテ社會主義者ノ中ヨリ發達セル「社會主義ノかんど化」運動ノ態度ト一致シテ來タコトラ學ブノデアルガ、終リニ余ハしゆたうちんがート同ジ方針ヲトリ、批判的方法ヲ實際哲學ノ領分ニ適用スルコト、殊ニ此ノ方法ガ社會科學ヲ哲學のニ深メルコトニ如何ニ適切デアルカ、又此ノ方法ハまゝるくす主義ノ發生的方法ト如何ニ結合



シ得ラルルカヲ論證スルコトニ最トモ努力シツツアルかゝる、ふをるれーんだーニヨリテ、かんとノ哲學ガ如何ナル意味ニ於テ近世社會主義ノ基礎ヲ据ヘ付ケタト、新かんと派ノ人々が考ヘテ居ルカヲ論究シテ見ヤウト思フ。

(6) かゝる、ふをるれーんだー (Karl Vorländer, 1860—).

かゝる、ふをるれーんだーハかんと哲學ト社會主義との關係ノ發達ニ就テ幾多ノ有益ナル論文ヲ發表シ、又かんとトまゐるくすトノ結合ニ關スル彼ノ見解ノ詳細ヲ「かんとトまゐるくす」(Kant und Marx, 1911)ニ於テ論述シテ居ル。併シ茲ニハ只彼ノ說ニヨリテ新かんと派ノ哲學者ガ一般ニ如何ナル意味ニテ、かんとハ近世社會主義ノ基礎ヲ据ヘ付ケタト觀念シテ居ルカヲ簡單ニ説述スルニ止メテ置ク。

夫レかんとノ政治的立場殊ニ社會政策的立場ニ就テハ、マダ詳シキ研究ハ發表サレテ居ラナイ。併シ吾人が彼ノ著作ヲ通觀シテ一般ニ受クル印象ニヨレバ、彼ハ一定ノ君主主義的保守主義的傾向ヲ伴ナヘル自由主義者デアツタ。又通例彼ハ右ノ如キ政治主義ノ人ト見做サレテ居ル。而シテ實際ニ於テ彼ノ主要ナル政治學的著作「權利論」ヲ通讀スルト、彼ハ全ク單純ナル法治國家ノ主張者デアツタ様ニ見ユルノデアル。何人ノ事業モ其ノ人ノ時代ニヨリテ決定サレルモノナレバ、かんとノ政治哲學ガ先ヅ第十八世紀ノ專制主義的警察國家及ビ身分的社會組織ニ反對シ、自由ト權利トノ觀念ヲ中心トシテ建設サレテ居ルコトハ敢テ怪ムニ足ラヌ。彼ノ時代ニ於テハ今日ノ意味ニテ解スル社會哲學ノ成立シ得ル一切ノ條件、例ヘハ器械工業、資本主義ノ大ナル發達、自由實

銀勞働者階級ノ發達等ノ條件ハ缺ケテ居ツタ。サレバトテかんとハ、既ニをんけんノ論述セル如ク、決シテ純粹ナル箇人主義者或ハまんちゐすたゝ人デハナカツタ。而モ吾人ハ彼ノ「權利論」ニ於テハ彼ヲ直接社會主義ニ結び付ケル紐帶ヲ發見スルコトハ出來ナイ。而シテこゝへんヲシテ彼ハ「獨逸社會主義ノ眞實ナル創設者」デアルトマデ云ハシメタル思想ハ、彼ノ倫理學ノ基本思想ノ中ニ發見サレルノデアル。

今かんとノ倫理學ハ外面上ニ於テハ箇人の倫理學ノ如クニ見ユルガ、結局ハ著シク社會的ナル倫理學デアル。而シテ社會主義ヲ倫理的ニ觀念スレハ夫レハ社會倫理ニ外ナラヌモノデアル。又かんとノ倫理法則ニ就テ一般ニ非難サレル其ノ形式主義ハ、實ハ最トモ豊富ナル結果ヲ生ミ出スモノデアル。其ノ普遍的立法ノ形式的原理デアルト云フ點ニ、彼ノ倫理法則ノ社會ヲ建設ヘル力ガ存在シ、「共同的法則ニヨリテ種々ナル理性的實在物ヲ組織的ニ結合スル」ト云フ思想ニ於テ、彼ノ倫理法則ハ道德ノ世界或ハ目的ノ世界ノ觀念ヲ生ムノデアル。云フマデモ此ノ世界ハ理想的ノモノデアル。而モ夫レハ空想的ノモノデナク、「人間ノ觀念」ニ基ツキテ構成セラレ、吾人ノ努力ニヨリテ實現サレ得ルモノデアル。而シテ此ノ「人間ノ觀念」ヨリシテ「道德形而上學原論」ニ於テ見出サル斷言の命令ノ立言即チ、「汝ハ汝ノ人格ニ於テモ亦各々ノ他人ノ人格ニ於テモ、決シテ單ニ手段トシテデハナク、常ニ同様ニ目的トシテ人間ヲ用ユル様ニ行爲セヨ」ト云フ立言ガ直接ニ引キ出サレルノデアル。かんとノ考フル處デハ、各理性的實在物ハ、最トモ貧シキ日傭勞働者スラモ、「夫レ自身目的トシテ存在スルモノ」ニシテ、決シテ「道具デナク」、「他人ノ任意の使用

ノ手段デナク」、「物デナク」、「實ニ人格デアル」、而シテ「其ノ人格トシテノ存在ヲ認ムルコトニ於テ人間ハ神聖ナルモノトナルノデアル」。かんとハ又此ノ人間自己目的ノ原理ハ各箇人ノ自由ノ最上制限の條件デアラネバナラスト説イテ居ル。要スルニかんとホド社會主義ノ根本觀念、社會思想ヲ簡單明白ニ云ヒ表ハシタル人ハナイト思フ。

而シテかんとハ右ノ社會思想ノ實現シ得ラルルコトヲ眞面目ニ信ジテ居ツタコトハ、「純正理性批判」中ニ、古代社會主義ノ最大觀念、即チふらとーノ共和國ニ就テ論ジテ居ルコトヲ見テ察シ得ラレルノデアル。尙ホ其ノ後四年目ニ公ニセル「世界の市民ノ見解ニ於テ見タル一般史ノ觀念」ニ於テ、かんとハ人類ノ最大問題、最高任務、最後ノ目的ハ正富ナル市民的組織ニ完全ニ到達スルコトデアルト云フテ居ルガ、是レツマリ其ノ成員ノ各々ノ自由ガ只總テノ他ノ成員ノ自由ト一致スルト云フ條件ニヨリテノミ制限サレル社會ノ建設ヲ意味スルモノニシテ、面ノテかんとハ只カカル社會ニ於テノミ、人間ノ一切ノ自然的稟性ガ其ノ本質ニ從フテ十分ニ發展スルコトガデキ、又或人ガ特權ヲ享受スルガ爲メニ夫レダケ他人ガ缺乏ヲ感ジ、不利ヲ蒙ルト云フガ如キ事ノ起ラナイ狀態ガ實現シ得ラレルモノト考ヘタノデアル。かんとハ其ノ後モ右ノ思想ヲ固持シテ居ツタコトハ「哲學科ト法科トノ爭ヒ」(Der Streit der Fakultäten, 1798)ノ中ニ於テ「ダーとびあ」ニ就テ論ジテ居ルコトヲ見テ明ラカニ推察シ得フレル。尙ホ「純粹理性ノ限界内ニ於ケル宗教」ノ中ニモかんとト社會主義トノ關係ヲ考究スルニ當テ間接的ニ甚ダ有益ナル資料トナル言説ガ發見サレル。

終リニ「權利論」モ決シテ普通ニ考ヘラレテ居ルホド、純個人主義的及び自由主義的ノモノデナイ。此ノ書中ニ於テモかんとハ權利ヲ解シテ、「普遍的法則ニ從フテ各人ノ自由ト一致スル全ク相互的ナル強制ノ可能」デアルト云フテ居ル。又原始土地共有制問題ニ就テ論ジテ居ルコトハ近世社會主義ノ上カラ見テ甚ダ興味アルモノニシテ、此ノ問題ニ就テかんとヲ社會主義ニ結び付クルコトハ敢テ不可能デナイカモ知レナイ。

併シかんとヲ眞實ニ又根本的ニ社會主義ニ結び付ケルモノハ、箇々ノ問題ニ關スル彼ノ思想デハナクシテ、彼ノ基本的倫理思想デアアルデアアル。即チ各同胞ノ人格ニ於テ、人間ヲ決シテ單ニ手段トシテ見ズ、常ニ直チニ自己目的トシテ尊ブ可ク教ユル斷言的命令デアアル。かんと自身ハ此ノ基本的思想中ニ含蓄サル結果ヲ十分ニ引キ出サナカツタ、隨フテ彼自身ハ社會主義ノ立場ニ達シナカツタ。かんとハ決シテ社會主義者デハナカツタノデアアル。併シ何人デモ社會主義ヲ倫理的ニ確立セントスルニ於テハ、此ノ思想ヲ基礎トシナケレバナラス。此ノ思想ヲ措テ他ニ社會主義ノ倫理的基礎ヲ十分ニ確立スルモノハナイノデアアル。サレバ此ノ方面ヨリ見テ、吾人ハこゝに云ハル如ク、かんとヲ以テ「獨逸社會主義ノ眞實ノ創設者」ト見做シ得ラレルト思フノデアアル。

併シ茲ニ問題ガ起ツテクル。夫レハ何故ニかんとハ獨逸社會主義ノ創設者タル役目ヲ歴史的ニ演ゼズ、彼レヨリハ寧ロふいひてガ此役目ヲ演ジタカト云フ問題デアアル。此ノ問題ニ就テ先ヅ注意ス可キハ、かんとハ彼ノ社會倫理的根原理ヲ、ふいひてガ其ノ「封鎖的商業國家」ニ於テ試

ミシ如ク、社會經濟ノ實際領分ニ於テ組織的ニ適用セント試ミナカツタト云フコトデアル。かんとハ其ノ政治學上ノ主要著作「權利論」ニ於テ彼ノ斷言の命令ノ含蓄スル根本的ナル倫理的見地ヲ政治的經濟的生活ニ十分ニ適用シテ居ラナイト思フ。同書ニ於テ、彼ハ成程總テノ市民ノ最もモ完全ナル法律的自由、平等及ビ獨立ヲ主張シテ居ル。併シ彼ハ商人或ハ手工業者ノ傭人、僕婢、日傭勞働者、小作人及ビ總テノ女子等、約言スレバ他人ヨリ「食物及ビ保護」ヲ受クル總テノ人ヲシユウツビユルガ、國民シユウツビユルガ、トハ認メズ、單ニ國家補助員ト見做シテ居ル。但シかんとハ彼等モ人間トシテ國民ト同ジク自由及ヒ法律上ノ平等ヲ有スキモノニシテ、若シ然ラズバ如何ナル人民モ國家ヲナスモノト認メラレナイト云フテ居ル。尙ホ彼等ガ單ナル國家補助員ノ「受働的狀態」ヨリ國民ノ「能働的狀態」ヘ上ルコトヲ妨クル何物モ存在シテハナラスト考ヘタ。要スルニかんとハ彼ノ斷言の命令ノ徹底的結論トシテ近世社會主義ノ引キ出セル思想、即チ政治的獨立ノ豫備條件タル經濟的獨立ハ總テノ人々ニ於テ皆ニ理想的ニ止マラス、事實的ニ實現サレル可キモノデアルト云フ思想ニハマダ思ヒ及バナカツタノデアル。併シ是レハ彼ノ時代ノ經濟的及ビ文化的狀態ヲ考ヘルト大ニ恕シ得ラレル事ト思ハレル。かんとモ矢張り時代ニヨリテ制限サレテ居ツタノデアル。

以上述べシカゝる、ふむるれゝんだゝノ見解ニヨリテ、吾人ハ新かんと派ノ哲學者ハ如何ナル意味ニテかんとヲ「獨逸社會主義ノ眞實ノ創設者」ト考ヘテ居ルカラ學ビ得ラレト思フ。余ハ茲ニ敢テ此ノ見解ノ是非ヲ論ジャウトハ思ハナイガ、トニカク此ノ見解ニヨリテ新かんと派殊ニまゐるぶゝるひ派ノ哲學者ノ間ニ社會主義化ノ傾向ノ發達セシ所以ヲ理解スルコトガ出來ル。要

スルニかんとハ彼ノ時代ノ經濟的及ビ文化的狀態ニ制限サレテ彼ノ倫理的根本思想、斷言の命令ノ論理的結論ヲ其ノ時代ノ自由主義ノ要求ノ程度ニ止メタノデアルガ、新かんと派ノ哲學者ハ現代ノ經濟的及ビ文化的發達ノ狀態ニ應ジテ、社會主義ノ要求ノ程度マデ斷言の命令ノ論理的結論ヲ引キ延バサントスルノデアレ。而シテ彼等ノ間ニ此ノ如キ運動ノ起ツテ來タノハ、是レ軌近ニかんとノ批判的唯心主義ガ復活サレテ、哲學ノ諸方面ヤ、神學ヤ、又自然科學ノ領分ニモ適用サレ、重大ナル效果ヲ奏セルヲ見テ、其ノ見地ヲ現代ノ最トモ強大ナル運動、即チ社會運動ニモ適用シ、該運動ノ要求ノ正當ナル哲學的基礎ヲ確立シ、又其ノ正當ナル進路ヲ見定メントスル願望ガ彼等ノ間ニ發生シタガ爲メデアル。ツマリかんと哲學ノ適用ノ發達擴張トシテ彼等ノ間ニ社會主義化ノ傾向ガ起ツテ來タノデアル。而シテ此ノ傾向ハ社會的唯物主義ノ不完全、不徹底ヲ指摘シテ、之ヲ根本的ニ排斥シ、之レニ對シテ社會的理想主義ヲ確立セントスル態度ヨリ始マリ、夫ヨリ兩者ヲ適當ニ結合シ調和セントスル態度ニ達シタノデアルガ、之レト同時ニ又社會主義者ノ方面ヨリモ同様ノ態度ガ發達シテ來タノデアル。是レ即チ「社會主義ノかんと化運動」ト稱セララルモノニシテ、社會主義は此ノ運動ニヨリテ行キツマリノ境ヲ脱シ、新シキ生命ヲ得テ新シキ發達ヲ始メテ來タノデアル。